

# レディーミクストコンクリート配合計画書

令和 5 年 4 月 1 日  
 広島県呉市豊浜町大字大浜字東松山1974番地  
 有限会社 谷口生コン  
 生コン工場 TEL(0823) 68-2463  
 FAX(0823) 68-2317

配合計画者名 谷口 尚基

工 事 名 称	
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	6月上旬～10月中旬 夏期修正標準配合
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼 び 強 度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低
				水セメント比の目標値の上限	55
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限	kg/m <sup>3</sup>
呼び強度を保証する材齢			又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>	
空気量			流動化後のスランプ増大量	cm	

## 使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント(株)			密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	0.49			
混和材①	製品名		種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> Oeq %				
混和材②	製品名		種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> Oeq %				
骨材	No.	種 類	産地又は品名		アルカリシリカ反応性 による区分		粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量 の範囲 %
					区分	試験方法			絶 乾	表 乾	
細骨材	①	砕砂	大分県津久見市上青江		A	モルタル法	5以下	2.86	2.62	2.65	7.0±2.0
	②	加工砂	呉市蒲刈町田戸字揚畑		A	化学法	5	2.80	2.51	2.55	
	③										
粗骨材	①	砕石	呉市蒲刈町向		A	化学法	20～10	59.5	2.71	2.72	1.0±1.0
	②	砕石	呉市蒲刈町向		A	化学法	15～5	59.5	2.71	2.72	1.0±1.0
	③										
混和剤①		マスターホリート15L				AE減水剤		Na <sub>2</sub> Oeq %		0.05	
混和剤②	製品名			種 類							
混和剤③											
細骨材の塩化物量		0.000		水の区分		上澄水		目標スラッジ固形分率		%	
回収骨材の使用法		細骨材			粗骨材			安定化スラッジ水の使用の有・無			

## 配 合 表 (kg/m<sup>3</sup>)

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
316			166	451	431		566	375		3.48		
水セメント比		52.5 %		水結合材比		%		細骨材率		49.5 %		

細骨材混合比(容積) 石灰砕砂:加工砂=50:50  
 粗骨材混合比(容積) 砕石2010:砕石1505=60:40

**備考** 配合切替は工程検査で測定したコンクリート温度が別表の範囲で予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中3点が超えた時又は下回った時

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

**配合計算書**

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランプ°又はスランプ°フー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m³
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55 %
	塩化物含有量	0.30	kg/m³以下	単位水量の目標値の上限	kg/m³
	呼び強度を保証する材齢		日	単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m³
	空気量			流動化後のスランプ°増大量	cm

変動係数(V) 当社実績値 V = 8.0 (%)

配合強度(m)  
 $m = 0.85SL \div (1 - 3.000V \div 100) = 30.2$   
 $m = SL \div (1 - 2.000V \div 100) = 32.1$   
 以上より、配合強度(m) = 32.1(N/mm²)とします。  
m = 32.1(N/mm²)

水セメント比(W/C)  
 $W/C = 22.5 \div (32.1 + 10.6) \times 100 = 52.693(\%)$   
W/C= 52.5 (%)

単位水量(W) 当社実績値 W = 166(kg/m³)

単位セメント量(C)  
 $C = W \div W/C \times 100 = 166 \div 52.5 \times 100 = 316(kg/m³)$   
 $V_c = C \div \rho_c = 316 \div 3.04 = 104(Q/m³)$   
C = 316(kg/m³)  
Vc= 104(Q/m³)

粗骨材かさ容積(Q/m³) 当社実績値 V = 582(Q/m³)

単位粗骨材量(G)  
 $V_g = V \times \text{実績率} \div 100 = 582 \times 59.5 \div 100 = 346(Q/m³)$   
 $V_{g1} = V_g \times (60 \div (60 + 40)) = 208(Q/m³)$   
 $V_{g2} = V_g - V_{g1} = 138(Q/m³)$   
 $G_1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 208 \times 2.72 = 566(kg/m³)$   
 $G_2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 138 \times 2.72 = 375(kg/m³)$   
Vg= 346(Q/m³)  
Vg1= 208(Q/m³)  
Vg2= 138(Q/m³)  
G1= 566(kg/m³)  
G2= 375(kg/m³)

単位細骨材量(S)  
 $V_s = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_g + V_{air})$   
 $= 1000 - (166 + 104 + 346 + 45) = 339(Q/m³)$   
 $V_{s1} = V_s \times (50 \div (50 + 50)) = 170(Q/m³)$   
 $V_{s2} = V_s - V_{s1} = 169(Q/m³)$   
 $S_1 = V_{s1} \times \rho_{s1} = 170 \times 2.65 = 451(kg/m³)$   
 $S_2 = V_{s2} \times \rho_{s2} = 169 \times 2.55 = 431(kg/m³)$   
Vs= 339(Q/m³)  
Vs1= 170(Q/m³)  
Vs2= 169(Q/m³)  
S1= 451(kg/m³)  
S2= 431(kg/m³)

細骨材率(s/a)  
 $s/a = V_s \div (V_s + V_g) \times 100 = 339 \div (339 + 346) \times 100 = 49.5(\%)$   
s/a= 49.5 (%)

単位混和剤量(Ad)  
 $Ad_1 = C \times \text{添加率} \times \rho_{ad1} \div 100$   
 $= 316 \times 1.00 \times 1.100 \div 100 = 3.48(kg/m³)$   
Ad1= 3.48(kg/m³)

**配合表 (kg/m³)**

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
316			166	451	431		566	375		3.48		
水セメント比		52.5	%	水結合材比			%	細骨材率		49.5	%	

# レディーミクストコンクリート配合計画書

令和 5 年 4 月 1 日  
 広島県呉市豊浜町大字大浜字東松山1974番地  
 有限会社 谷口生コン  
 生コン工場 TEL(0823) 68-2463  
 FAX(0823) 68-2317

殿

配合計画者名 谷口 尚基

工 事 名 称	
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	3月下旬～7月上旬・9月中旬～12月中旬 標準配合
コンクリートの打込み箇所	

### 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼 び 強 度	スランプ <sup>o</sup> 又はスランプ <sup>o</sup> フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 ℃
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55 %
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齢			単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齢			又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量			流動化後のスランプ <sup>o</sup> 増大量	cm

### 使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント(株)			密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	0.49			
混和材①	製品名		種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> Oeq %				
混和材②	製品名		種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> Oeq %				
骨材	No.	種 類	産地又は品名		アルカリ反応性 による区分	粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>	微粒分量 の範囲 %		
					区分	試験方法		絶 乾	表 乾		
細骨材	①	砕砂	大分県津久見市上青江		A	モルタル <sup>o</sup> 法	5以下	2.86	2.62	2.65	7.0±2.0
骨材	②	加工砂	呉市蒲刈町田戸字揚畑		A	化学法	5	2.80	2.51	2.55	
	③										
粗骨材	①	砕石	呉市蒲刈町向		A	化学法	20～10	59.5	2.71	2.72	1.0±1.0
	②	砕石	呉市蒲刈町向		A	化学法	15～5	59.5	2.71	2.72	1.0±1.0
	③										
混和剤①		マスターポ <sup>o</sup> リヒト <sup>o</sup> 15L			AE減水剤			Na <sub>2</sub> Oeq %		0.05	
混和剤②	製品名				種 類						
混和剤③											
細骨材の塩化物量	0.000			水の区分	上澄水			目標スランプ <sup>o</sup> 固形分率	%		
回収骨材の使用法	細骨材		粗骨材		安定化スラッジ水の使用の有・無						

### 配 合 表 (kg/m<sup>3</sup>)

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③	
310			163	456	439		566	375		3.41			
水セメント比			52.5 %	水結合材比			%			細骨材率			49.9 %

細骨材混合比(容積)	石灰砕砂:加工砂=50:50
粗骨材混合比(容積)	砕石2010:砕石1505=60:40

**備考** 配合切替は工程検査で測定したコンクリート温度が別表の範囲で予想繰り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中3点が超えた時又は下回った時

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランプ <sup>°</sup> 又はスランプ <sup>°</sup> フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 ℃
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55 %
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齢			単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量			流動化後のスランプ <sup>°</sup> 増大量	cm

変動係数(V) 当社実績値 V = 8.0 (%)

配合強度(m)  
 $m = 0.85SL \div (1 - 3.000V \div 100) = 30.2$   
 $m = SL \div (1 - 2.000V \div 100) = 32.1$   
 以上より、配合強度(m) = 32.1(N/mm<sup>2</sup>)とします。  
 m = 32.1(N/mm<sup>2</sup>)

水セメント比(W/C)  
 $W/C = 22.5 \div (32.1 + 10.6) \times 100 = 52.693(\%)$   
 W/C = 52.5 (%)

単位水量(W) 当社実績値 W = 163(kg/m<sup>3</sup>)

単位セメント量(C)  
 $C = W \div W/C \times 100 = 163 \div 52.5 \times 100 = 310(kg/m^3)$   
 $V_c = C \div \rho_c = 310 \div 3.04 = 102(Q/m^3)$   
 C = 310(kg/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>c</sub> = 102(Q/m<sup>3</sup>)

粗骨材かさ容積(Q/m<sup>3</sup>) 当社実績値 V = 582(Q/m<sup>3</sup>)

単位粗骨材量(G)  
 $V_g = V \times \text{実績率} \div 100 = 582 \times 59.5 \div 100 = 346(Q/m^3)$   
 $V_{g1} = V_g \times (60 \div (60 + 40)) = 208(Q/m^3)$   
 $V_{g2} = V_g - V_{g1} = 138(Q/m^3)$   
 $G_1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 208 \times 2.72 = 566(kg/m^3)$   
 $G_2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 138 \times 2.72 = 375(kg/m^3)$   
 V<sub>g</sub> = 346(Q/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>g1</sub> = 208(Q/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>g2</sub> = 138(Q/m<sup>3</sup>)  
 G<sub>1</sub> = 566(kg/m<sup>3</sup>)  
 G<sub>2</sub> = 375(kg/m<sup>3</sup>)

単位細骨材量(S)  
 $V_s = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_g + V_{air})$   
 $= 1000 - (163 + 102 + 346 + 45) = 344(Q/m^3)$   
 $V_{s1} = V_s \times (50 \div (50 + 50)) = 172(Q/m^3)$   
 $V_{s2} = V_s - V_{s1} = 172(Q/m^3)$   
 $S_1 = V_{s1} \times \rho_{s1} = 172 \times 2.65 = 456(kg/m^3)$   
 $S_2 = V_{s2} \times \rho_{s2} = 172 \times 2.55 = 439(kg/m^3)$   
 V<sub>s</sub> = 344(Q/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>s1</sub> = 172(Q/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>s2</sub> = 172(Q/m<sup>3</sup>)  
 S<sub>1</sub> = 456(kg/m<sup>3</sup>)  
 S<sub>2</sub> = 439(kg/m<sup>3</sup>)

細骨材率(s/a)  
 $s/a = V_s \div (V_s + V_g) \times 100 = 344 \div (344 + 346) \times 100 = 49.9(\%)$   
 s/a = 49.9 (%)

単位混和剤量(Ad)  
 $Ad_1 = C \times \text{添加率} \times \rho_{ad1} \div 100$   
 $= 310 \times 1.00 \times 1.100 \div 100 = 3.41(kg/m^3)$   
 Ad<sub>1</sub> = 3.41(kg/m<sup>3</sup>)

配合表 (kg/m<sup>3</sup>)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
310			163	456	439		566	375		3.41		
水セメント比	52.5 %		水結合材比					細骨材率		49.9 %		

レディーミクストコンクリート配合計画書

令和 5 年 4 月 1 日  
 広島県呉市豊浜町大字大浜字東松山1974番地  
 有限会社 谷口生コン  
 生コン工場 TEL(0823) 68-2463  
 FAX(0823) 68-2317

配合計画者名 谷口 尚基

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	11月中旬～4月下旬 冬期修正標準配合
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55 %
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齢			単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量			流動化後のスランプ増大量	cm

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント(株)			密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	0.49		
混和材①	製品名		種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> Oeq %			
混和材②	製品名		種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> Oeq %			
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシカ反応性 による区分		粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量 の範囲 %
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	大分県津久見市上青江	A	モルタル法	5以下	2.86	2.62	2.65	7.0±2.0
	②	加工砂	呉市蒲刈町田戸字揚畑	A	化学法	5	2.80	2.51	2.55	
	③									
粗骨材	①	砕石	呉市蒲刈町向	A	化学法	20～10	59.5	2.71	2.72	1.0±1.0
	②	砕石	呉市蒲刈町向	A	化学法	15～5	59.5	2.71	2.72	1.0±1.0
	③									
混和剤①	製品名	マスターホリート15L		種類	AE減水剤		Na <sub>2</sub> Oeq %	0.05		
混和剤②										
混和剤③										
細骨材の塩化物量	0.000			水の区分	上澄水		目標スラッグ固形分率	%		
回収骨材の使用法	細骨材				粗骨材				安定化スラッグ水の使用の有・無	

配合表 (kg/m<sup>3</sup>)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
305			160	464	444		566	375		3.36		
水セメント比	52.5 %			水結合材比				%	細骨材率	50.2 %		

細骨材混合比(容積) 石灰砕砂:加工砂=50:50  
 粗骨材混合比(容積) 砕石2010:砕石1505=60:40

備考 配合切替は工程検査で測定したコンクリート温度が別表の範囲で予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中3点が超えた時又は下回った時

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

**配合計算書**

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55 %
	塩化物含有量	0.30	kg/m <sup>3</sup> 以下	単位水量の目標値の下限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢		日	又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量		%	流動化後のスランプ増大量	cm

変動係数(V) 当社実績値 V = 8.0 (%)

配合強度(m)  
 $m = 0.85SL \div (1 - 3.000V \div 100) = 30.2$   
 $m = SL \div (1 - 2.000V \div 100) = 32.1$   
 以上より、配合強度(m) = 32.1(N/mm<sup>2</sup>)とします。  
m = 32.1 (N/mm<sup>2</sup>)

水セメント比(W/C)  
 $W/C = 22.5 \div (32.1 + 10.6) \times 100 = 52.693 (\%)$   
W/C= 52.5 (%)

単位水量(W) 当社実績値 W = 160 (kg/m<sup>3</sup>)

単位セメント量(C)  
 $C = W \div W/C \times 100 = 160 \div 52.5 \times 100 = 305 (\text{kg/m}^3)$   
 $V_c = C \div \rho_c = 305 \div 3.04 = 100 (\text{L/m}^3)$   
C = 305 (kg/m<sup>3</sup>)  
V<sub>c</sub>= 100 (L/m<sup>3</sup>)

粗骨材かさ容積(L/m<sup>3</sup>) 当社実績値 V = 582 (L/m<sup>3</sup>)

単位粗骨材量(G)  
 $V_g = V \times \text{実績率} \div 100 = 582 \times 59.5 \div 100 = 346 (\text{L/m}^3)$   
 $V_{g1} = V_g \times (60 \div (60 + 40)) = 208 (\text{L/m}^3)$   
 $V_{g2} = V_g - V_{g1} = 138 (\text{L/m}^3)$   
 $G_1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 208 \times 2.72 = 566 (\text{kg/m}^3)$   
 $G_2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 138 \times 2.72 = 375 (\text{kg/m}^3)$   
V<sub>g</sub>= 346 (L/m<sup>3</sup>)  
V<sub>g1</sub>= 208 (L/m<sup>3</sup>)  
V<sub>g2</sub>= 138 (L/m<sup>3</sup>)  
G<sub>1</sub>= 566 (kg/m<sup>3</sup>)  
G<sub>2</sub>= 375 (kg/m<sup>3</sup>)

単位細骨材量(S)  
 $V_s = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_g + V_{air})$   
 $= 1000 - (160 + 100 + 346 + 45) = 349 (\text{L/m}^3)$   
 $V_{s1} = V_s \times (50 \div (50 + 50)) = 175 (\text{L/m}^3)$   
 $V_{s2} = V_s - V_{s1} = 174 (\text{L/m}^3)$   
 $S_1 = V_{s1} \times \rho_{s1} = 175 \times 2.65 = 464 (\text{kg/m}^3)$   
 $S_2 = V_{s2} \times \rho_{s2} = 174 \times 2.55 = 444 (\text{kg/m}^3)$   
V<sub>s</sub>= 349 (L/m<sup>3</sup>)  
V<sub>s1</sub>= 175 (L/m<sup>3</sup>)  
V<sub>s2</sub>= 174 (L/m<sup>3</sup>)  
S<sub>1</sub>= 464 (kg/m<sup>3</sup>)  
S<sub>2</sub>= 444 (kg/m<sup>3</sup>)

細骨材率(s/a)  
 $s/a = V_s \div (V_s + V_g) \times 100 = 349 \div (349 + 346) \times 100 = 50.2 (\%)$   
s/a= 50.2 (%)

単位混和剤量(Ad)  
 $Ad_1 = C \times \text{添加率} \times \rho_{ad1} \div 100$   
 $= 305 \times 1.00 \times 1.100 \div 100 = 3.36 (\text{kg/m}^3)$   
Ad<sub>1</sub>= 3.36 (kg/m<sup>3</sup>)

**配合表 (kg/m<sup>3</sup>)**

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
305			160	464	444		566	375		3.36		
水セメント比	52.5	%	水結合材比	%	細骨材率	50.2	%					